

【令和3年度 政策・調整会議】

件名：(仮称)川崎カーボンニュートラルコンビナート構想策定に向けた検討状況について

日時：令和3年11月16日(火) 14:21~14:23

場所：第3庁舎18階 大会議室

●付議理由

川崎水素戦略に基づくリーディングプロジェクトの推進や、臨海部ビジョンに基づく低炭素型インダストリーエリア構築プロジェクトへの取組を進める中、本市の2050年脱炭素宣言や、国の2050年カーボンニュートラル宣言など、カーボンニュートラルに向けた潮流が劇的に加速している。こうした状況を踏まえ、これまでの水素を中心とする取組を更に加速・発展させるため、(仮称)川崎カーボンニュートラルコンビナート構想の策定に向けた検討を進めており、その検討状況を報告するもの。

●付議概要

1 構想策定の背景・目的

2050年のカーボンニュートラル社会実現に向け、臨海部全域をカーボンニュートラル化しながら産業競争力を強化するため、これからの川崎臨海部のあるべき姿とその実現に向けた取組の方向性を、立地企業と共有する「川崎カーボンニュートラルコンビナート構想」を策定する。

2 構想の検討状況

(1) 構想の構成(案)

「基本理念」、「2050年の将来像」、「将来像を実現する戦略」から構成する。

(2) 「基本理念」の考え方(案)

「産業の集積地」「日本のカーボンニュートラル社会を牽引」「地域と調和」といった要素を入れる。

(3) 「2050年の将来像」の考え方(案)

- ・水素を軸とした「CO₂フリーのエネルギー拠点」の形成を目指す。
- ・炭素を再資源化し利活用する「炭素循環型のコンビナート」の実現を目指す。
- ・地域でのエネルギーの利活用を最適化し、「立地競争力のある産業地域」の形成を目指す。

(4) 川崎水素戦略の位置付け・「将来像を実現する戦略」の考え方(案)

川崎水素戦略の取組をこれまで以上に発展・強化していくため、川崎水素戦略を本構想に位置付け、一体的に取組を進めることが必要である。

(5) 構想の取組による効果

- ・カーボンニュートラルに寄与する産業の成長を基盤とする、産業競争力の強化
- ・川崎臨海部のカーボンニュートラル化

●結論

報告内容について確認。